

平成19年度 追跡評価調書

機 関 名 アイヌ民族文化研究センター

課 題 番 号	ア文研一般1904	研究成果の活用状況・公表状況	評 価
研 究 責 任 者		○成果の活用状況	【自己評価】 【説明】
研究課長 古原敏弘		アイヌの「神謡」の音楽構造と歌唱様式を通して、音楽を伴う口承文芸を専門的立場から分析した理論として、「神謡」の伝承や学習を進めていく上で貴重な参考資料となっている。	一定のリズムに乗せて語られる口承文芸である神謡は、これまで文学・言語の研究資料とされてきたが、本研究課題は音楽学の立場からの新しい分析の試みとして評価を受けている。
研 究 担 当 者			
研究職員 甲地利恵			
研 究 課 題 名			
沙流川流域の「神謡」の音楽構造と歌唱様式についての調査研究			
研 究 課 題 の 概 要		○成果の公表状況	【総合評価】 【説明】
○事業区分 一般試験		H12年 研究センター紀要6号 「クモの神の自叙」の音楽について—旋律構造とリズム配分を中心に— H12年7月 第433回東洋音楽学会定例研究会「アイヌの「神謡」の旋律について—「クモの神の自叙」の録音資料を例に—」 ：口頭発表 H14年 研究センター紀要8号 「クモの神の自叙」の音楽について(続)—神謡の演唱にみる音節数・アクセント・音型・リズム型の相互関係— H18年 研究センター紀要12号「沙流川流域に伝わるアイヌの「神謡」の音楽について(1)概説 (2)拍節構造」	
○研究期間 平成11～16年度			
○全体所要額(一財) 701 (千円)			
○共同研究機関(協力機関) なし			
○研究成果の概要 アイヌ語沙流方言話者による「神謡」というジャンルの音楽構造と歌唱様式を分析し、口承文芸を語る際のメロディには一定の簡潔な規則性が内包されていることを例証した。			
事 後 評 価 の 結 果			
○整理番号(2) (17)年度事後評価結果			
【自己評価】 (A)・B・C			
【総合評価】 (A)・B・C			